

エピソード55

子どものことをととても心配
する保護者に出会いました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校で、学級担任をしている先生の経験をお聞きします。

ゆうま君は体が丈夫ではないことが理由で、就学までほとんど自宅で過ごしていました。お母さんは学校生活をととても心配していました。

身体面では、無理な運動をしないようにゆうま君に話していたし、登下校時も友達と一緒にいる息子の様子を見ながら、あの子とは遊んでいい、あの子はダメなど人関係にも口をだしていました。





お母さんが学校にこうして欲しいと言ったことはありませんか。

学校で、少しでもいじわるをされたり、転んで膝を擦りむいたりすると、すぐに学校に事情をこまかく聞く電話がきたし、かかわった子の保護者に直接、苦情を言ったりしました。

お母さんの過剰にも見える態度には理由があると考えました。





理由をお母さんからお聞きすることができたんですか。

個人懇談で、お母さんが子どもの頃、いじめられていた経験、それを親、先生にも相談できなかったことを聞かせてくれました。



そして、小さいころ特に身体が弱かったため自宅で過ごし初めて学校生活を経験する子どもを守りたいという気持ちがいいつも強くはたらいていると感じました。



お母さんの小さい頃の経験、我が子の身体が弱く、学校に入るまで他の子とのかかわりがなかったことなど複数の理由があったんですね。

そうですね、お母さんの心配の理由が少し理解できたので、できるだけ連絡をしてゆうま君の様子を伝えるようにしました。

そして、ゆうま君が身体も心も順調に成長していることをわかってもらい、安心してもらえるように努めました。





伝えたのは、ゆうま君の
どのような様子ですか？

体育もずっと見学ではなく、喘息の発作が
でないように自分で考えて走ったり、
休んだりできるようになったことや、

やんちゃな子が悪口をいっても、ちゃんと
友達や先生に助けを求めることができる
こと、その子もゆうま君のことを本当は
好きなこと等、です。





そうですか、お母さんはゆうま君の様子を聞いてうれしかったのではないですか。

お母さんがよくやっていて、一生懸命守ってきたからゆうま君が元気になってきたこと、

少しずつ離れて見守ることも、大切ですね、という話もしました。





お母さんにとっては、離れて見守るのは
きっと寂しく感じますね。

1年間過ごして、少しずつ学校生活や友達関係を
安心してくれるようになったと思いますけど、
これからもお母さんの心配は続くと思いました。

次の学年でも、お母さんがゆうま君の成長を
安心して見守っていけるように、1年間の経緯
を次の担任にも詳しく引き継ぎました。





なみちゃんの一言

- 保護者の心配はなくなることはなく、子どもの成長発達に伴って、心配する事柄を変えながら続けていきます。
- 保護者のがんばりが子どもの成長、発達につながったことを、保護者に伝えていくことも大切です。
- 配慮を要する子ども、保護者について、次年度の担任に引き継ぎを行うこともポイントになります。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)